

9.07 活動報告

1. 1日の流れ

13:00	遠野駅着
13:00~14:00	引継ぎ開始
14:00~15:15	役割分担（食事当番、掃除当番）
16:00~19:00	夕食準備開始
19:00	夕食
20:20~21:40	ミーティング
22:30	スタッフミーティング

2. 活動内容

夕食づくり。ミーティング（自己紹介、抱負）

3. ミーティングで出た抱負、ボランティアに参加した理由、アドバイス等

- 震災を身近なものと感じた。
 - 自分の友人の親が津波の被害にあった。
 - 他人事にせず、日本人として日本のために何かしたいと考えたから
- なぜ今ボランティアするか。
 - スケジュールに余裕があったため。
 - 前期中は学業に専念し、夏休みに何かやりたかったから
- なにがしたいのか？
 - 被災者に寄り添って行動したい。
 - 人の役に立ちたい。
 - 現地の人々の声が聞きたかったから。実際の状況を見てみたい。
 - 学習ボランティアと聞いて参加したが、実際は多様な活動を行っているため積極的に頑張りたい。
 - 自分が今できることをしたい。

どうしてボランティアに参加するのかについて常に考え行動することで、より深いものが得られるはず。

また、再度参加する方々は、それぞれに「まだやりたい」「最後まで見たい」という、強い決意を持って参加している。初参加の人も含め、参加日数の違いはあったとしても、それぞれしっかりとした意思を持って、最後まで活動したい。

1. 1日の流れ

5:30 食事班起床

6:00 朝食準備開始

7:00 朝食

8:15 出発(8人)

陸前高田市視察

大船渡市視察

社会福祉協議会挨拶

12:10~12:45 昼食

13:30~15:30 ベンチ作り(18人)

<学習支援班>

<帰宅班>

16:00 大船渡中学校

17:50 夕食準備開始

生徒 26名 (女 19名 男 7名)

19:10 夕食

20:15 ミーティング

22:00 スタッフミーティング

2. 活動内容

被災地など視察

長洞仮設住宅のベンチ作り(4班にわかれ、6つのベンチを作成)

3. 意見, 感想

視察の感想

- 瓦礫を片付けただけという印象を受けた。
- テレビで見る上空からの映像とは違い、人間の小ささを感じ、時間の経過も感じた。
- 被災した方々に「来てくれてありがとう。」と言われて何とも言えない気持ちになった。
- 被災地の状態を実際に目にして、どうしてこうなったのかといった恐怖の気持ちをもう一度再確認した。
- 状況を実感できず、被災者と同じ立場にはなれないと感じた。

- 建物、漂流物が残っていて生々しかった。

ベンチ作りについて

ベンチ作りのコンセプトの確認

今まで知らなかった人たちが挨拶や立ち話で終わらず、ベンチに腰をかけて話すことによってよりコミュニケーションが生まれ、新たなコミュニティの輪が広がって行く。このように、コミュニティ形成のためのベンチ作りだが、それが目標ではなく、私たちは被災者の自立を目指している。その手段として、住民の方々と共にベンチ作りをし、自分たちで作ったという実感を持つことで、自立の第一歩を築いている。

なぜ自立が必要か

ボランティアの人たちはいつか自分たちの活動拠点に帰ってしまうので、いつまでも頼ることができない。今までは何でも物を提供する時期だったが、これからは立ち上がろうとする力を横からサポートすることが必要である。

はまっぺしのコンセプト

「はまる」輪に入る+「っぺし」しようよ

夕食の持ち寄りによって自立を促す。

注意点

- やりすぎないこと（あくまで共催）。
- 長期での視点が必要（何度も開催することで効果を得る）。

こびるの会のコンセプト

「こびる」お昼前の小休憩から由来する

お茶会を開催する。

注意点

お茶会で出すお菓子は手作りにすることによって、仮設住宅に住む人々との話のタネとなる。

学習支援について

反省点

- ・勉強環境として、少しうるさかった。←それもいいのでは？

⇒（大船渡中の意向としても）しっかりと勉強を教えることを目的とすべき。

教科書も借りられたので、次回からは、事前に打ち合わせを行い、より効果的な指導法を実行していきたい。

9月9日活動報告書

1. 1日の流れ

07:00 食事

08:15 出発

09:30 山口団地にてベンチ作り

12:30 漁村センターにて昼食休憩

13:15 出発

13:30 (午前中が順調だったため)長洞団地にてベンチ作り

15:30 作業終了

【学習支援メンバー】

16:50 学習指導

17:30 終了

19:00 夕食

20:15 ミーティング

22:20 終了

<感想・意見>

山口と長洞の違いについて

山口：住人の方々と一緒にベンチを作成することができた

- ・同じ地区の住人が団体で入居した為、もともとコミュニケーションが活発
- ・その土地への執着心が強い
- ・団地の規模が小さい

長洞：ベンチがベンチとして活用されていない、一緒に作る人数が少ない

- ・様々な避難所から入居している
- ・300戸以上の大規模の団地

ベンチの利用法について

問題：長洞ではベンチをベンチとして活用している様子がない（布団干しに利用など）

意見1. 使い方は自由でよいのではないか

- ・あくまできっかけづくりなのであり、それぞれが工夫して使用するプロセスも大切

- ・ずっとそこで暮らす住人のやり方を尊重すべき

- ・互いに足りないところを補い合う（片方がカバーしきれない問題を一方が解決するなど）ことで、新たなコミュニケーションが生まれることもある

意見2. あくまで公共物として使ってもらえるように伝えていくべき

- ・コミュニティ作りは初めが肝心なため、将来のことを考えると、ある程度方向性を導いていくことも必要⇒そのひとつの仕掛けとしてのベンチ

- ・コンセプトを伝えていくべき

↓

今後考えていく課題：どこまでこちら側が使い方をコントロールすべきなのか？

9月10日活動報告書

2. 1日の流れ

07:30 食事

09:00 出発

10:00 長洞団地にてベンチ作り

12:00 団地内にて昼食休憩

13:00 作業再開

色塗り完成 6個 資材から作ったベンチ 4個 プレート装着 4個

16:00 お菓子作り

17:30 集会所内で「はまっぺし」

参加人数 36名 (男:18名 女:13名 子:5名)

持ち寄り 21名 38品目

20:00 出発

21:00 帰宅

<感想・意見>

ベンチ作りの感想

・今回は入り口付近で作業をしたので奥で作業していた時より近所の方々とお話しする機会が多かった。

・声をかけると、子供たちも参加してくれて、管理は大変だったが、とても嬉しかった。

※奥はスロープ工事の都合上、騒音があった。

ベンチのあり方について

ベンチの掃除の必要性

・明日1度ベンチを拭いてみる。その時に住民の方々に「1度座ってみませんか。」と声をかける。

- ・ 雑巾等は雨さらしになるので、住民の方々の判断に任せる。

ベンチの配置について

- ・ ニーズのある場所に配置すべきか平等性を重んじるべきか
- ・ ニーズのある場所に配置する長所は住民の方々のコミュニケーションの輪が広がる、認知度が上がる。
- ・ 短所は平等性に欠けることで不満がでる、同じ人ばかりが利用する傾向になる。
- ・ 平等性を重んじる長所は不平等に対する不満を防げる、公共性を重んじられる。
- ・ 短所は脇に止める車の阻害となってしまう。
- ・ 疑問点として本当に何処にニーズがあるのか、棟につき1個置くことは平等だといえるのか。
- ・ 結論として、今は各棟に1個ずつ置いて、残りは集会所中心に必要なと思う場所に配置する。

9月11日活動報告書

3. 1日の流れ

07:00 食事

08:15 ミーティング

09:50 ミーティング終了 教会礼拝

10:50 出発

12:20 YSセンターで昼食

<ベンチ作り班>

<チラシ班>

12:55 社会協議福祉センターにて

公共性をPRしたベンチの宣伝

ベンチの色塗り、ステッカー装着(計7個) こびるの会の宣伝

15:00 長洞団地にてステッカー装着(テーブル6個、L字型3個、ベンチ5個)、
配置

16:00 出発

<直帰班>

<買い出し班>

17:20 帰宅

18:00 帰宅

19:20 夕食

20:45 ミーティング

<感想・意見>

長洞でのベンチ作りについて

- ・ 物置等、私物化しているベンチが4個あった。
- ・ 住民の方にステッカーを装着する目的が公共のものであるという印だということに納得していただけた。
- ・ 初等部とのコンセプトの違いにより、ベンチの私物化が生じたという背景がある。
- ・ ベンチのこれからは自治会の設置が第一。

チラシについて

- ・ チラシの意義は公共性を伝えること、座ってもらうことを促すこと、ベンチの存在を多くの人々に知ってもらうことである。
- ・ 今のチラシでは公共性を伝えられていないのでは。

- ・ 「ベンチの使い心地はどうか。」は前提として認知している人たちに向けた言葉。
- ・ 私物化してしまう人たちに対しては「公共のもの」という認識をさせる言葉が良いのでは。

はまっぺしについて

- ・ 雨が降ってきて忙しかった。
- ・ 入り口に受付を設けた方が良いという意見もあったが、気軽に入れることを考えると無い方が良い。
- ・ 片づけを住民の方々にもしていただけるように促す。
- ・ こんこん作戦は、ネガティブな反応をする人もいるが、迷っている人の背中を押すこともある。
- ・ 室内ですることによって、一人になっている人や、顔見知りで集まる傾向があった。
- ・ 個別のエピソードが多々あり、どれも人と人とのつながりを感じられるものだった。
- ・ 誰もすぐに信頼関係を築けるわけではないので、長い目で経過を見守ることが必要である。
- ・ 役割分担が必要だったのでは？⇨大学生として、自分たちで状況にあった判断をできる力を持つためにも、あえて決めすぎなかった。

9月12日活動報告書

- 5:30 朝食班起床
7:00 朝食
8:15 出発
9:20 ろくろ石仮設住宅到着 ベンチ作り チラシ作り
12:05 昼食
12:50 作業再開 こびるの会宣伝 ベンチ完成数（色まで）13個
15:20 作業終了
<買い出し班> <学習指導班>
17:30 調理開始 16:00 大船渡第1中学校 学習指導
17:40 終了
19:00 夕食
20:00 ミーティング

1. ミーティングでの議事録

【ベンチ製作】

- 今日、製作にご協力していただいた人数は男性2名。
- とともに製作することで、住民の方々がベンチに集まる契機となり、座りたいと思えて、愛着がわき、自分たちのベンチという実感がわき、自分たちがこうしたいと提案でき、議論できる環境、つまり自治を築くことにつながる。

【チラシ作り】

- 「こびるの会」のチラシを作って思ったことは、広報とは目的をより正確に伝えるために必要なものであり、より集客をするために必要なものだということ。
- ベンチのチラシはより公共性を重んじた内容に変更した。企画書を裏に印刷する予定。

【学習支援】

- 中学3年生の生徒25人(男8人、女17人)を指導した。教えるむずかしさはあったが、分かってくれたときの嬉しさもあった。
- 騒がしいけれどグループ内で教えあいしていた。
- 教室を分けるべきか否か。

※明日のベンチの配置について大通りに2個並べて配置する予定。理由としてはより人が集まり、コミュニケーションの輪が広がる、ベンチをより公共のものとして認識できるため。

9月13日活動報告書

- 5:30 朝食班起床
7:00 朝食
8:15 出発
9:20 ろくろ石仮設住宅到着 ベンチ作り
12:05 昼食
12:50 作業再開 こびるの会 こんこん作戦
13:30 一部の人で、こびるの会セッティング
14:00 こびるの会
15:20 作業終了
<買い出し班> <学習指導班>
17:30 調理開始 16:00 大船渡第1中学校 学習指導
17:40 終了
19:00 夕食
20:00 ミーティング、各個人の反省は明日の朝に持越し

- ・ベンチ個数 2日間で24個
- ・ベンチ作成での手伝い人数 4名
- ・こびるの会参加者 12人(?)

1. ミーティングでの議事録

【ベンチ製作】

- ・慣れた分効率よく作業できた
- ・カラフルなベンチによって、団地全体の雰囲気明るくなったように感じた
- ・自分たちの生活で精いっぱいなため、ベンチ作りのような集まりに出る余裕がない人もいる（特に若い人）
- ・不在の家が多く、「共に作る」目標の達成度は低いが、みなさん気に入ってくださり、おそらく大切に使われるだろう

【こびるの会】

- ・お互いに名前も知らない人同士が集まった様子だったが、自然な流れや「知り合いになりたい」という前向きな雰囲気があった
- ・途中で学生が住人の間に入ったため、住人同士がしゃべる機会が減ってしまった
 - あえて席をはずしたり、つなげるような会話を心掛けた学生もいた

提案：自己紹介や、名札などを配り知り合いになるためのサポートをする

《賛成》

- ・名前を知ることにより仲良くなるきっかけとなりうる

《反対》

- ・やりすぎではないか
- ・気軽さが損なわれたり、緊張するかもしれない
- ・あくまで自然で主体的なつながり方が理想ではないか

⇒どこまでやるか？コントロールのさじ加減を考えなければならない。

たとえば、回数や人数、メンバーによって調整するなど

【学習支援】

- ・40分は短いですが、そこで何をやれるかを考えていきたい
- ・学校からのニーズや、指導方法の改善の余地あり
- ・今後長期的に（受験期など）やれるのであれば、さらに工夫が必要

※各個人の感想などについては、最終日の朝のミーティングに持越し